




# 不妊白書2021

当事者5,140人の声から見えた  
「病院選びのポイント」



Fine NPO法人Fine (ファイン)

～現在・過去・未来の不妊体験者を支援する会～





## はじめに



日本で何らかの不妊治療・検査を受けたことがあるカップルは 5.5 組に 1 組、不妊に悩んだことがあるカップルは 3 組に 1 組といわれています。2018 年には、約 16 人に 1 人の子どもが体外受精や顕微授精などの高度生殖補助医療（ART）によって誕生しています。しかし、不妊は個人のセンシティブな問題として扱われ、なかなかオープンにされないのが実情です。そのため「自分の周りには不妊治療をしている人はいない」と思っている方も多いのではないのでしょうか。

こうした背景から、私たち NPO 法人 Fine は、周囲に理解されにくい不妊当事者の気持ちをできるだけ多くの皆さんに伝えるべく、定期的にアンケート調査を行なって、プレスリリースや講演など、さまざまな場で発表しています。今回は、患者が病院にどのような情報やサポートを求めているかを把握することを目的として、病院選びについてのアンケートを実施しました。5,140 人もの回答があり、病院を選ぶときの迷いや転院した理由など、多くの切実な声が寄せられました。そこには、不妊治療の高額な治療費の負担や、仕事との両立の困難さ、治療を繰り返しても妊娠できないつらさなど、背景にさまざまな課題が見られました。コメントすべてをこの白書に掲載することはできませんでしたが、その一部を、一人でも多くの、まだ現状を知らない方にお伝えできればと思います。

昨年、菅 義偉首相が不妊治療への保険適用を目指すことを表明し、メディアでも不妊治療が取り上げられることが多くなりました。しかし、その実情はまだまだ正しく知られていないことを日々実感しています。本書が広く社会に「不妊」を知っていただくきっかけとなり、不妊や不妊治療に対する誤解や偏見、特別視がなくなることを望みます。

2021 年 8 月

NPO 法人 Fine 理事長 松本亜樹子



## 目次



第1章	当事者の現状	5
コラム	不妊治療の実態調査について	10
第2章	治療開始時の病院選び	11
コラム	病院のウェブサイトに掲載されている情報は？	15
コラム	治療成績の開示について	22
第3章	転院について	23
コラム	不妊ピア・カウンセラーへの相談やおしゃべり会でも話題に	30
第4章	納得できる治療のために	31
コラム	妊娠率の計算方法は、いろいろ？	36
第5章	不妊治療と4つの負担	37
付録	アンケート調査票見本	41



# 第1章



## 当事者の現状

# 「どうする？教えて！病院選びのポイントアンケート 2020」

## 調査概要

- 調査目的

不妊・不育症治療患者の病院探しや通院にかかわる現状とニーズを把握し、必要な社会的サポートを明確にするため。患者一人ひとりが納得のいく治療を受けられるよう、治療環境の向上を図るため。またアンケート結果から当事者の声をまとめ、国に政策提言や要望書等を提出するため。

- 対象者

不妊治療・不育症治療を受けているすべての方、および、これから受ける方

- 回答者数

5,140 人

- 実施期間

2020 年 4 月 27 日～7 月 31 日

- 実施方法

ウェブアンケート。自由回答を含む全 35 問

- 実施団体

NPO 法人 Fine

※本書では、病院・クリニック（診療所）のことを「病院」と記します。

※掲載データは、小数第一位を四捨五入しています。

# 基礎集計データ

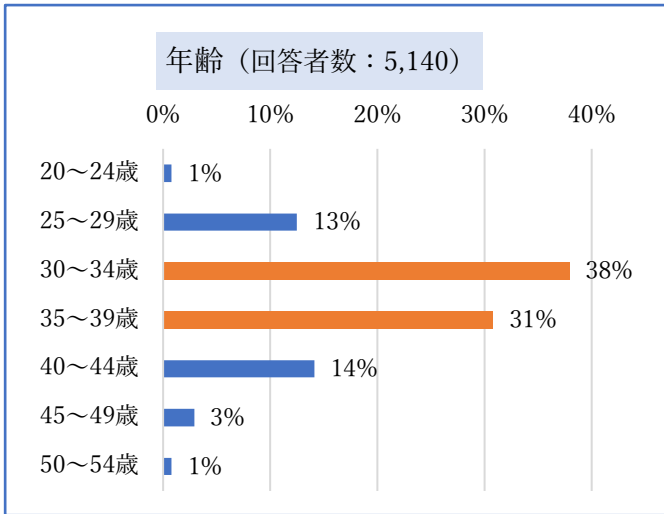


図 1 - 1

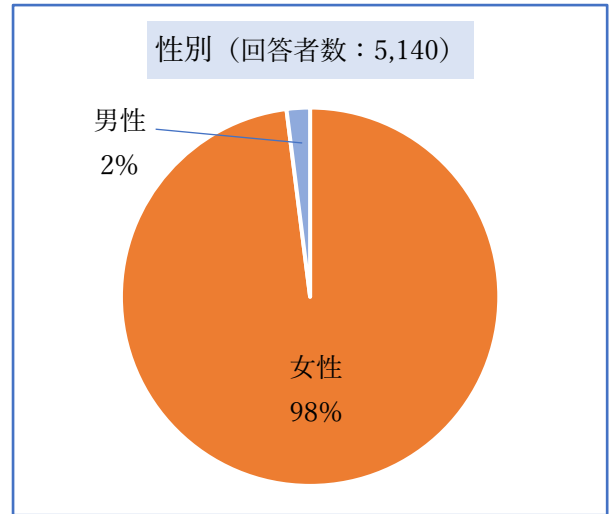


図 1 - 2

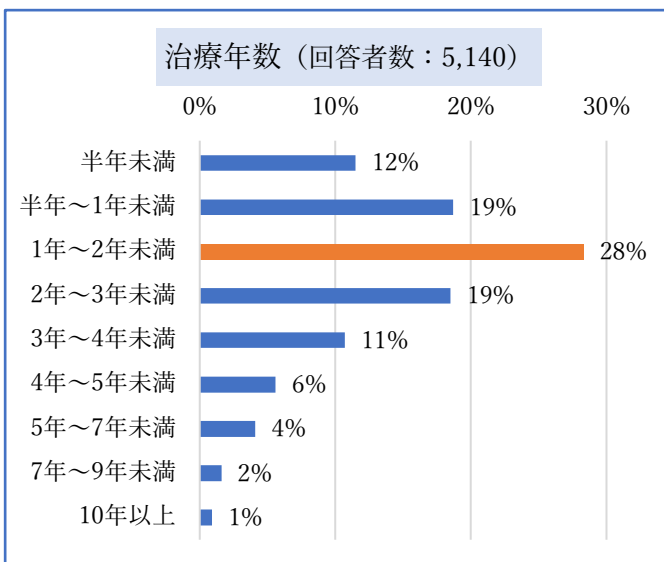
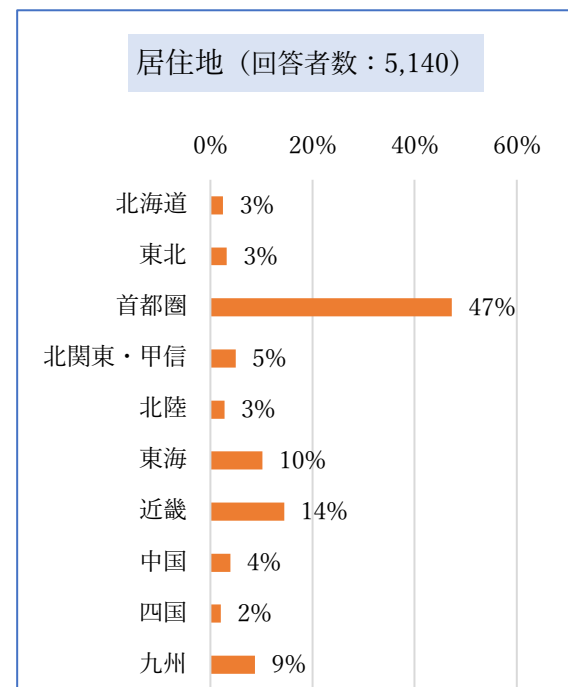


図 1 - 3



居住地が多かった都道府県は、東京 (25%)、神奈川 (10%)、大阪 (7%)、埼玉 (6%)、千葉 (6%)、愛知 (6%) でした。

図 1 - 5

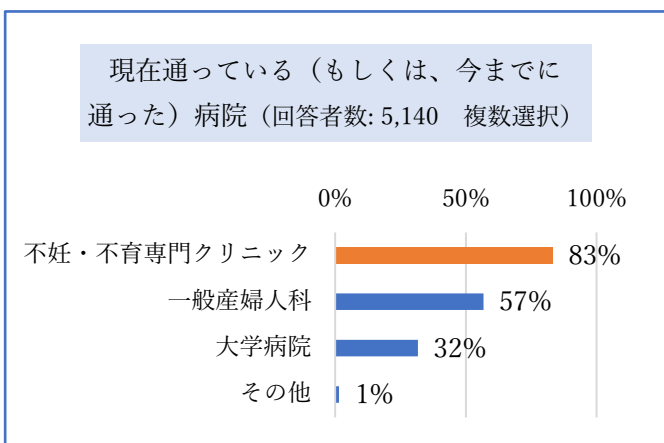


図 1 - 4

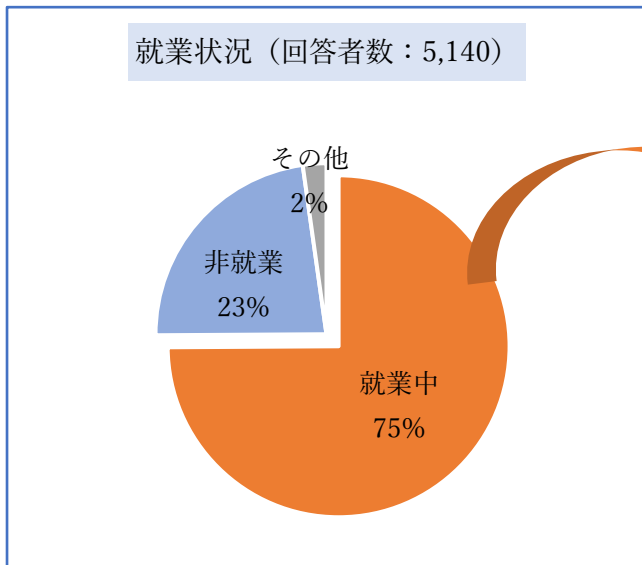


図 1 - 6

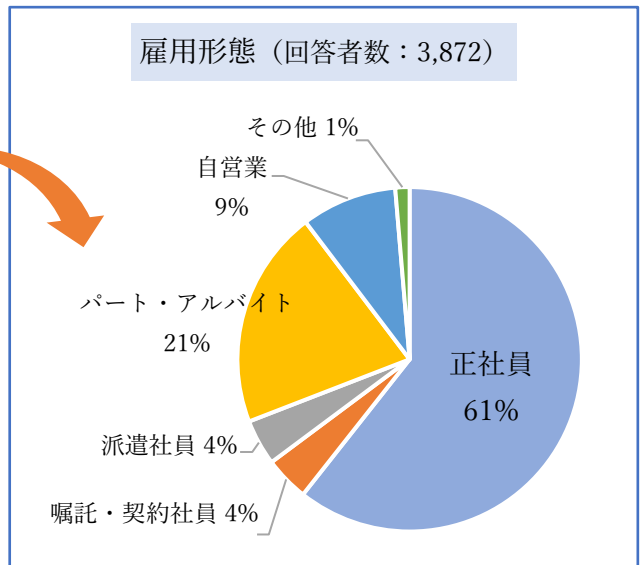


図 1 - 7

就業状況は、就業中の人が75%、非就業の人が23%でした（図1-6）。

また、就業中の人の雇用形態は、正社員が61%、非正規社員が29%でした（図1-7）。

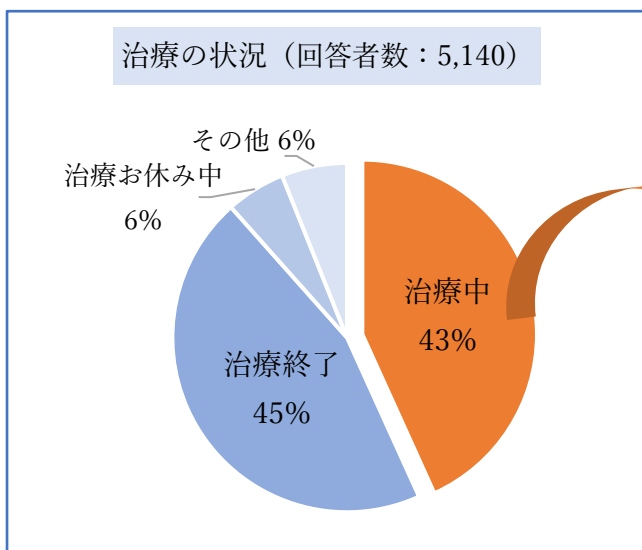


図 1 - 8

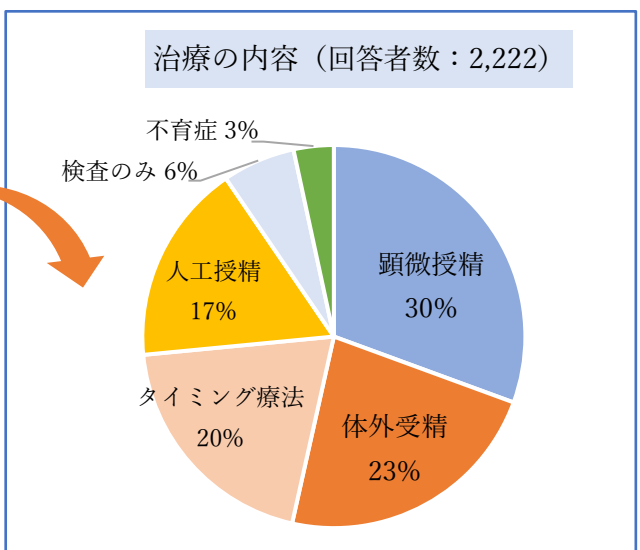


図 1 - 9

現在の治療状況は、43%が治療中で、治療をしていない人は、治療お休み中の人とあわせると51%でした（図1-8）。治療中と答えた人の治療内容は、体外受精や顕微授精などの高度生殖補助医療（ART）（53%）、タイミング療法（20%）、人工授精（17%）、検査のみ（6%）、不育症（3%）でした（図1-9）。現在治療をしていない人の内訳は、挙児（82%）、治療お休み中（11%）、治療を終了し子どもはいない（6%）、養子や里子を迎えた（1%未満）でした。

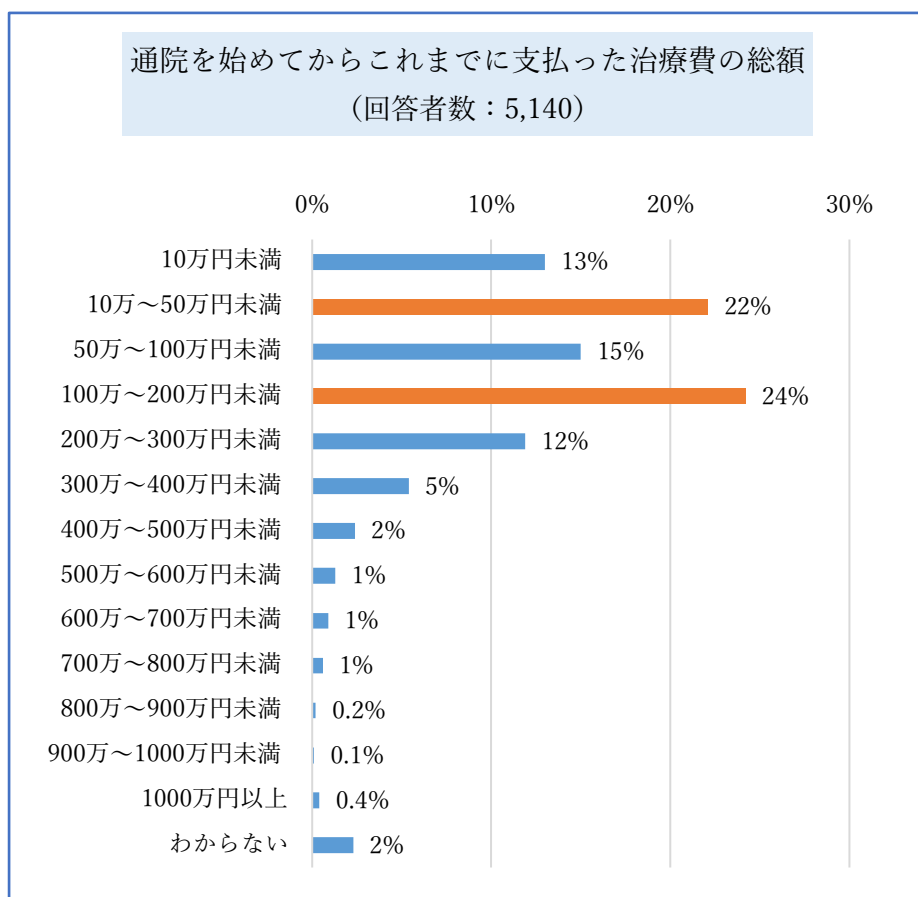


図 1 - 10

これまでに支払った治療費の総額は、「100万～200万円未満」（24%）がもっとも多いという結果でしたが、最高額では「1,000万円以上」と答えた人もいました。（図 1 - 10）



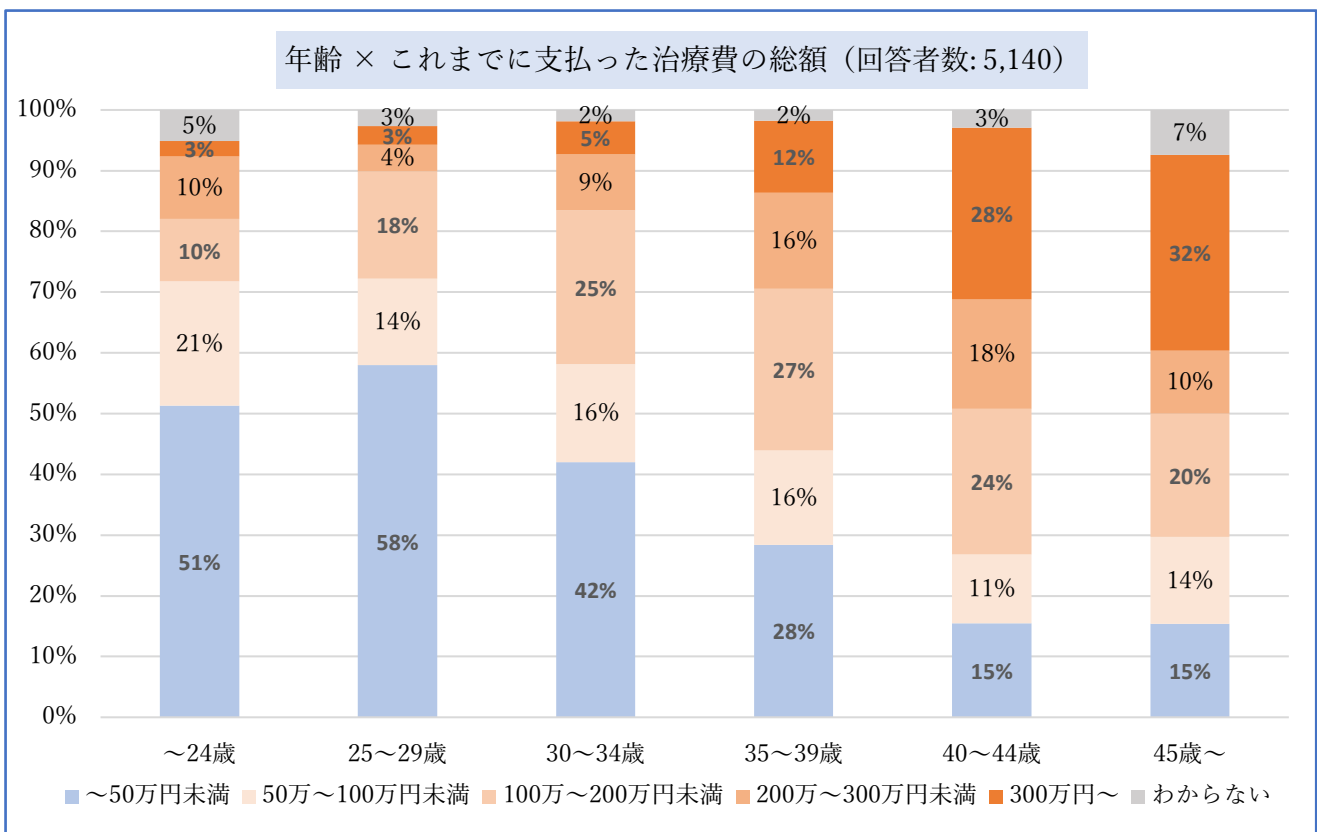


図 1 - 11

これまでに支払った治療費の総額を年齢別にみると、年齢が高いと治療費の総額が高くなるという傾向がみられました (図 1 - 11)。



## 不妊治療の実態調査について

2021年3月に厚生労働省から「令和2年度 こども・子育て支援推進調査研究事業 不妊治療の実態に関する調査研究」(※)が公開されました。既存データ(日本産科婦人科学会にて収集されたデータと各都道府県における不妊治療費助成事業の実績データ)の分析と、新たに実施した3種類のアンケート(医療機関向け、不妊治療当事者向け、一般向け)の結果をまとめた内容です。国が実態調査に乗り出したことは、不妊・不育症治療の環境改善のために前向きな動きととらえられるのではないのでしょうか。

(※)厚生労働省 不妊治療に関する取組

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo\\_kosodate/boshi-hoken/funin-01.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/boshi-hoken/funin-01.html)



## 治療開始時の病院選び

## 7割以上が病院選びで迷った

不妊や不育症治療の病院を選ぶうえで、迷った経験は、「すごくある」「少しある」をあわせると、77%が「ある」と答えています（図2-1）。

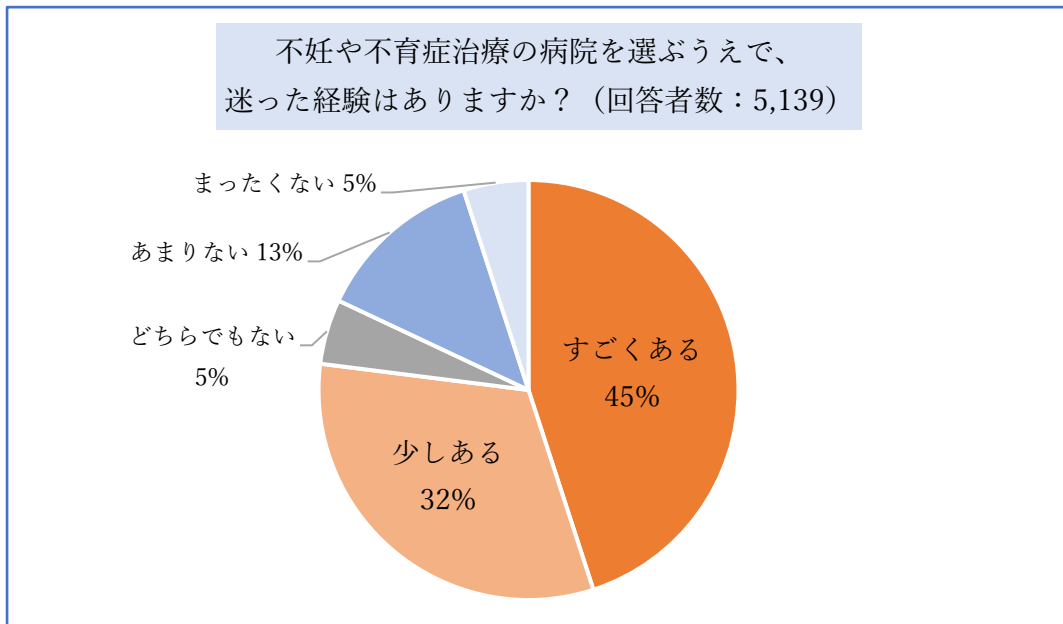


図2-1

その理由を自由記述欄でたずね、結果を分類しました（図2-2、図2-3）。

迷った理由では、「治療費用が高額であり、病院間に料金の差があるから」（21%）がもっとも多く、次いで「病院のウェブサイト・口コミ・SNSなどで決めることが困難だから」（17%）でした。体外受精などは保険適用外で費用が高額になるため、自分に適した病院なのかを見極めるのに慎重になります。例えば、費用を比較したいと思っても、治療内容や使用する薬はさまざまで、金額を単純に比較することができません。また「病院の治療成績が比較しづらいから」（13%）も上位にあがりました。治療成績を比較したいと思っても、公開していない病院もあり、公開されていても病院によって妊娠率の計算方法が異なったりするため、比較が難しいのが現状です。結局は、口コミやSNSの評判に頼らざるを得ない状況が伺えました。

一方、迷わなかった理由では、「通院しやすいから」（32%）がもっとも多くみられました。頻回な通院が必要になることが多い不妊治療では、通院のしやすさは病院選びのポイントといえ、特に仕事と治療を両立したいと思っている人にとっては重要になると考えられます。

迷った理由は、治療費用が高額で、病院間に料金の差がある、  
迷わなかった理由は、通院しやすいから

不妊や不育症治療の病院を選ぶうえで、迷った理由（回答者数：2,316 複数該当）

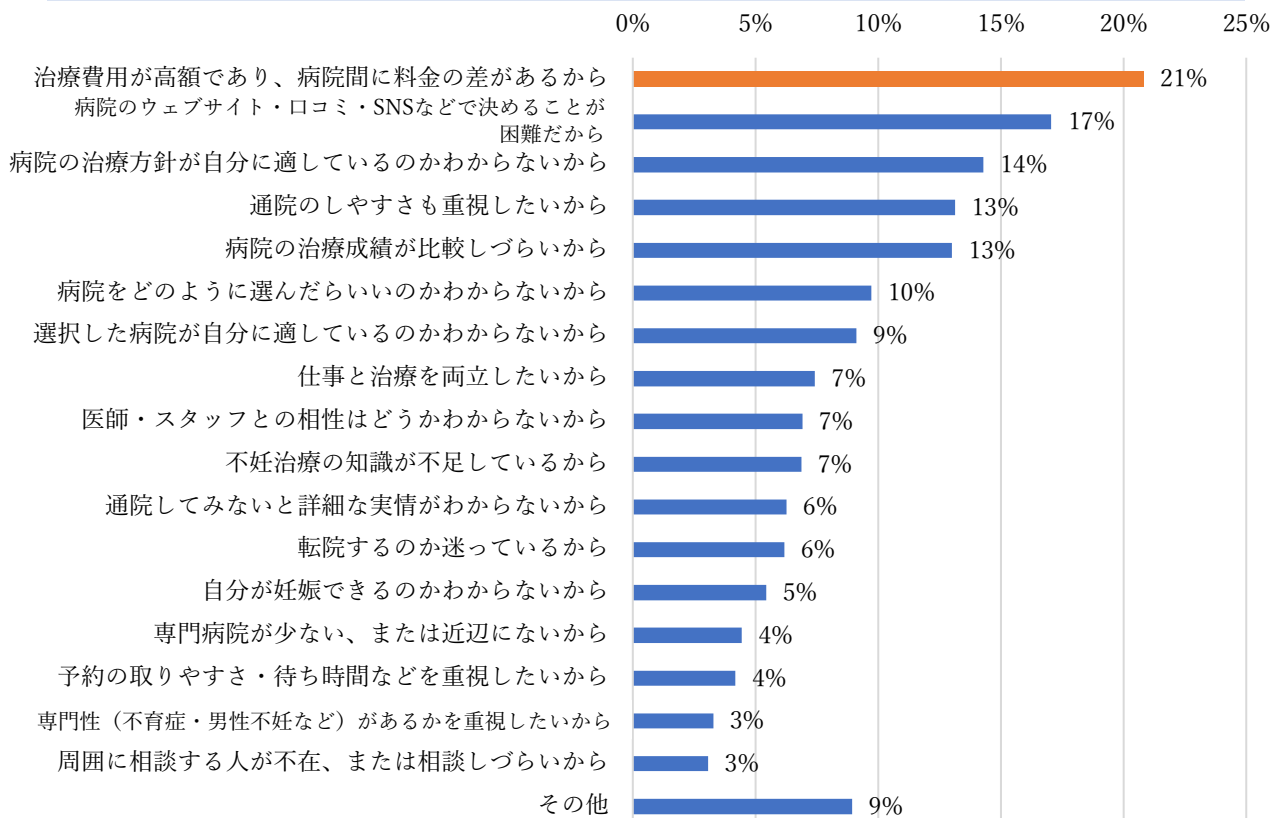


図 2 - 2

不妊や不育症治療の病院を選ぶうえで、迷わなかった理由（回答者数：247 複数該当）

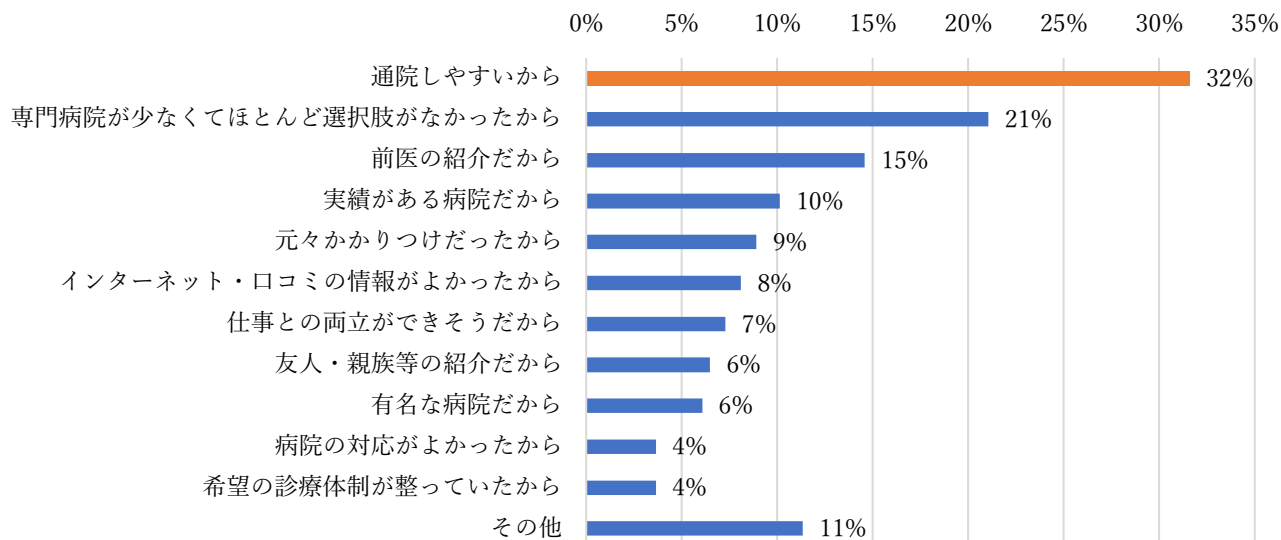


図 2 - 3

## 【自由記述欄に寄せられたコメント】

### 不妊や不育症治療の病院を選ぶうえで「迷った」理由

- 体外受精などの技術料は公表されていても、使用する薬代などの詳細な部分までは公表されておらず、費用面での比較ができない。(30代女性・兵庫県/正社員・正職員(専門職))
- 治療成績の基準が国や学会などで定められた一定の基準がなく、口コミや雰囲気などの信頼性に不安な要素を加味し検討せざるを得ない。(30代女性・東京都/パートだったがコロナで解雇)
- 治療成績の見方がわからないし、病院によって数値の出し方が違うので比較できなかった。(40代女性・愛知県/正社員・正職員(専門職))
- 治療成績が公開されていない。各機関で統一された実績公開がない。治療方針が多様すぎて、自分にどの方針が合うかわからない。(20代女性・東京都/パート・アルバイト)
- 一元化された情報サイトがなく、たくさんのサイト(クリニックのもの、口コミなど)を見比べなければならなかった。(40代女性・神奈川県/自営業)
- 初めてだったので、何を基準に選んでいいかわからなかった。周りにも経験者がおらず相談できる人がいなかった。(30代女性・東京都/正社員・正職員)
- 自分で治療に関する知識をつけ、検査をし、病院を選択しなければならないのがすごく大変だった。また実績を公開していない病院も多く、これも選択を困難にさせる要因だった。(30代女性・東京都/正社員・正職員(専門職))
- 仕事をしながら通えるか場所や時間を含めて考えると、何かを切り捨てなければならなかった。(40代女性・千葉県/パート・アルバイト)

### 不妊や不育症治療の病院を選ぶうえで「迷わなかった」理由

- 住んでいる場所が地方なので、病院を選べなかった。仕事をしながら通える場所を選ぶしかなかった。(30代女性・青森県/就業していない)
- 居住地のある市内で1つしかない不妊専門クリニックが高度生殖補助医療を扱っていて、自分にとってはそれ以外の選択肢がなかったから。(30代女性・福島県/正社員・正職員)
- 働きながら治療を続けるためには、職場に近い病院でなければ通うことができない。近隣に病院は1つしかなく、他に選択肢がなかった。(30代女性・長野県/正社員・正職員)
- 相談できる相手も比較・調査方法もなかった。(30代女性・東京都/正社員・正職員)
- その病院のホームページがわかりやすく、治療方針や治療費が明確だったから。(30代女性・埼玉県/正社員・正職員)

## 治療の情報は、 病院のウェブサイトから入手している

不妊・不育症治療を始める際に、治療の情報を「病院のウェブサイト」で探した人がもっとも多く、67%でした（図2-4）。

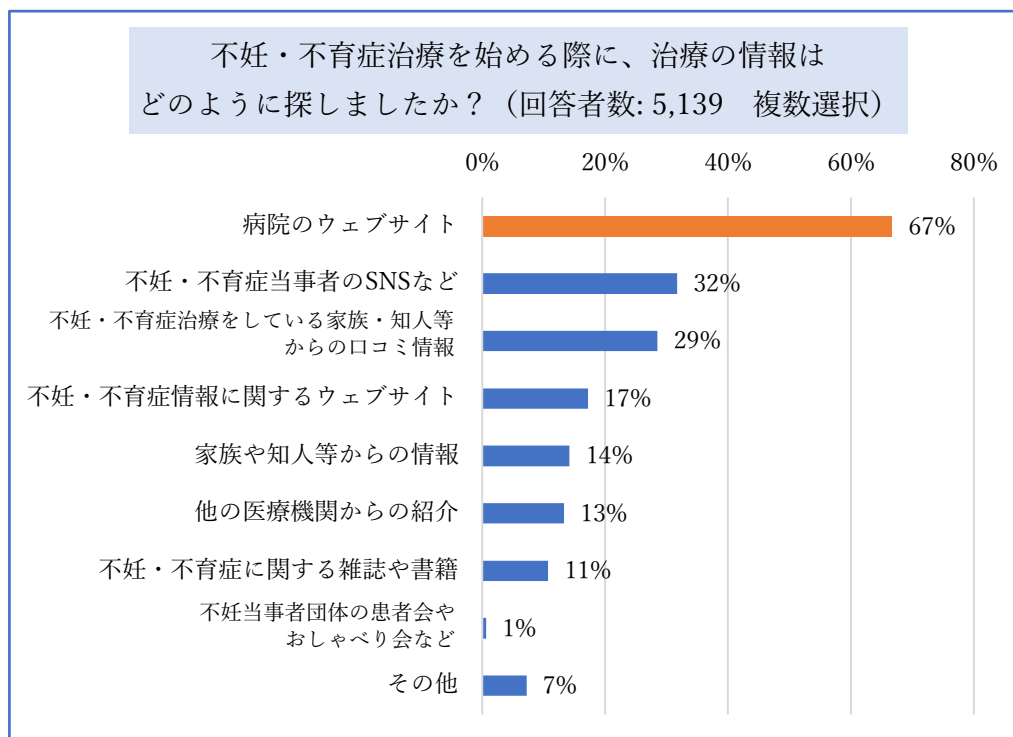


図2-4



### 病院のウェブサイトに公開されている情報は？

病院のウェブサイトには各種の情報が公開されています。その多くは「不妊治療の説明」「検査や治療の内容」「費用」「アクセス」「スタッフ紹介」などです。「費用」については、概算が表示されている病院もあれば、卵巣刺激方法別など細かく示されている病院もあります。「治療成績」については、掲載がない病院もありますが、掲載がある病院では、年齢別の胚移植あたりの妊娠率、妊娠に至るまでの移植回数、出産までの採卵回数など、その内容はさまざまです。

## 病院選びで重視したことは、 「通いやすさ」「評判」「治療成績」「診療時間」

病院を選ぶ際に重視したことについての回答結果を図2-5に示します。

「通いやすい場所だから」(70%)がもっとも多く、次いで「評判(口コミ)がよいから」「治療成績がよいから」「通いやすい診療時間だから」が上位にあがりました。

「その他」の中では、「不妊専門だから」というコメントがありました。

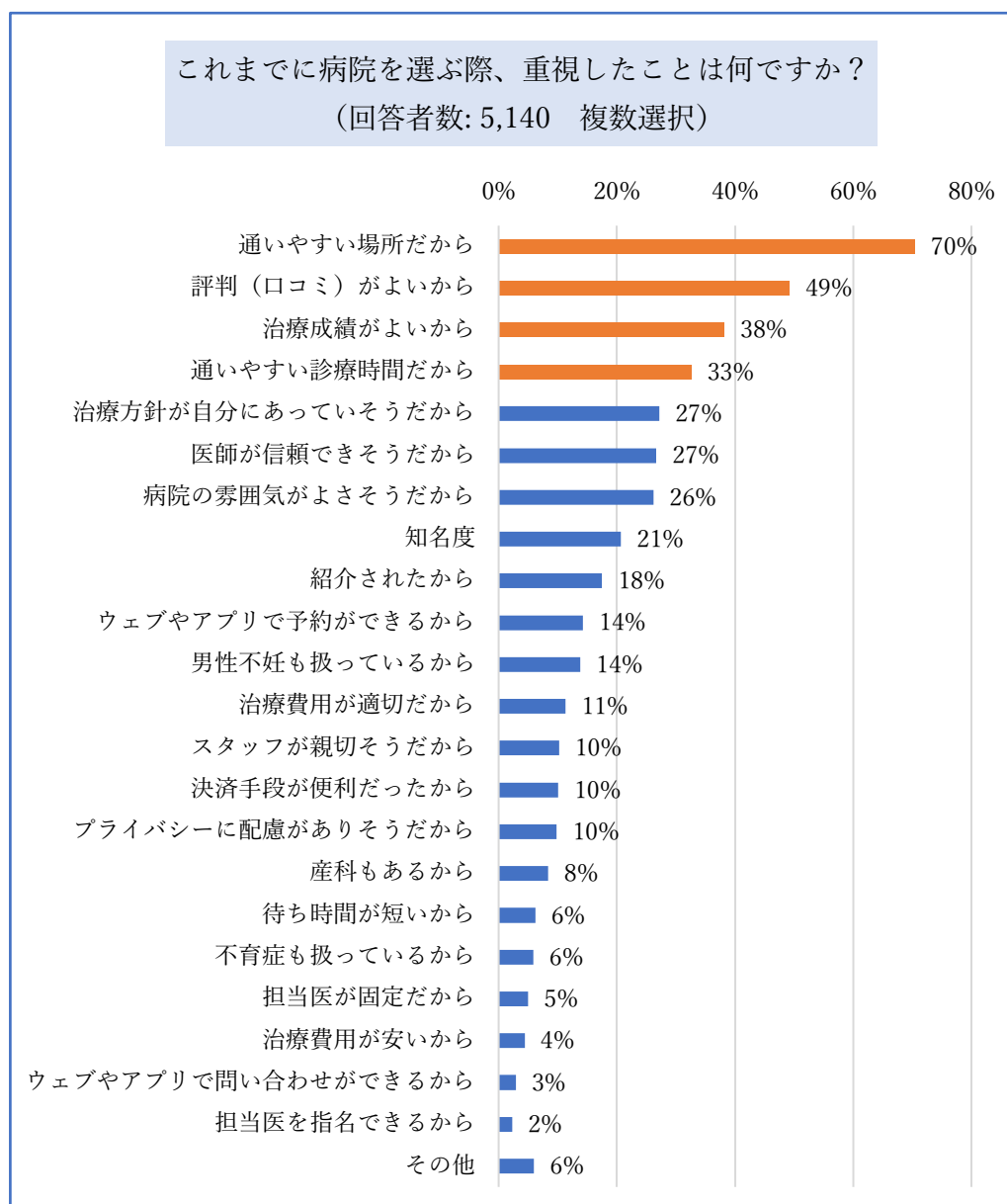


図 2 - 5

## 病院選びで知りたい情報は、 「評判」「治療費用」「治療成績」「診療日時」

病院を選ぼううえで知りたい情報についての回答結果を図2-6に示します。

「実際の患者の声・評判（口コミ）」（80%）がもっとも多く、次いで「治療費用」「治療成績」「診療日・診療時間」が70%以上で上位を占めました。

「その他」の自由記述には、「治療・提案・対応がていねいか」「医師の人柄」「不妊治療専門か」など医療に関することや、「妊婦や子連れと待合室が別か」など不妊治療における精神的な負担への配慮がされているかを知りたいというコメントがありました。

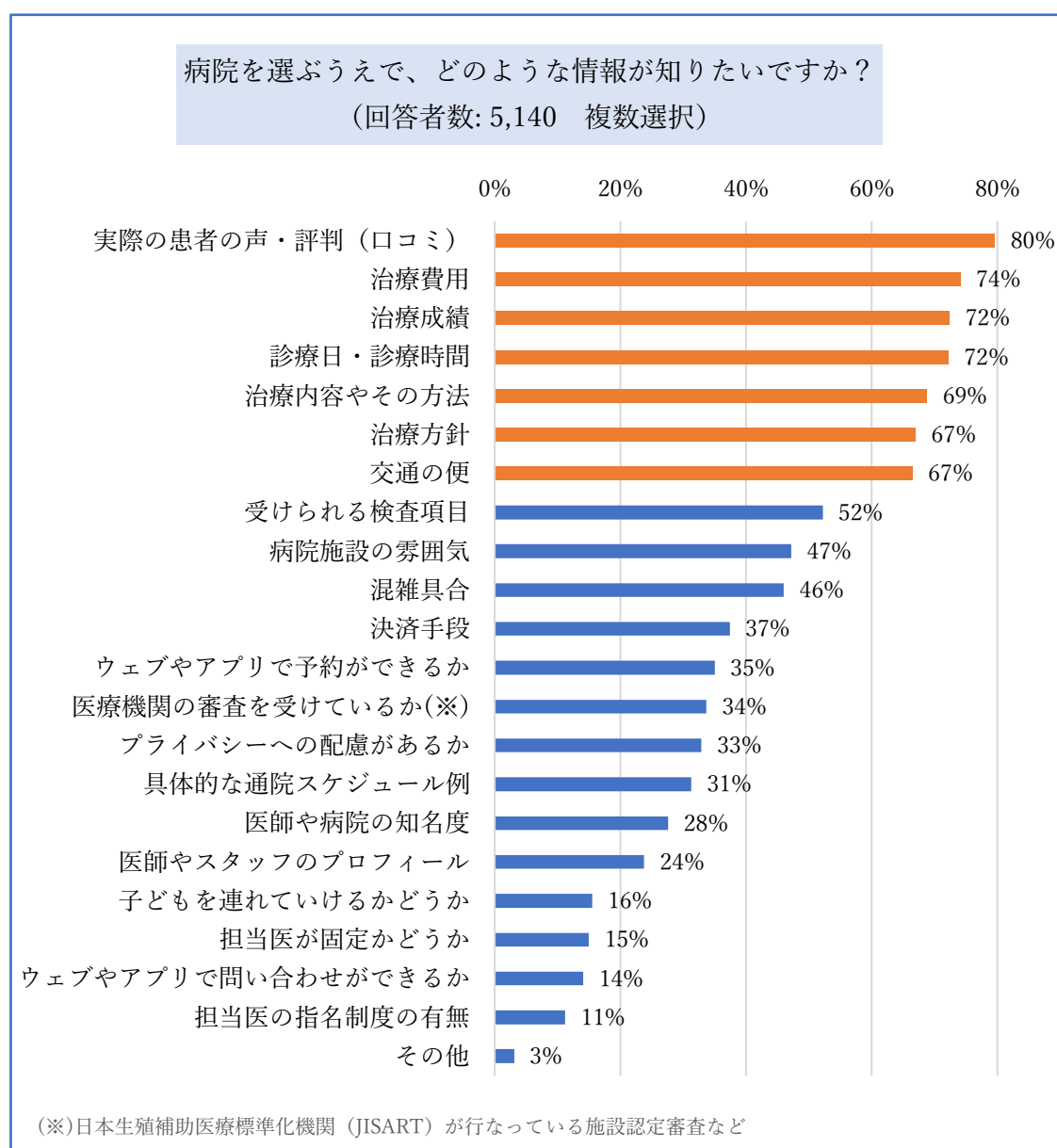


図 2 - 6



病院選びで**重視したこと** & **知りたい情報**は、  
 「治療内容・方針」「交通の便・通いやすさ」「評判」「治療成績」

病院選びで重視したこと（図2-5）と知りたい情報（図2-6）の関係を調べました（図2-7）。

「とても重視する」かつ「とても知りたい」情報は「治療内容・方針」「交通の便・通いやすさ」「評判」「治療成績」でした。

「治療費用」については、高額な病院もあるので、知りたい情報（図2-6）の2番目（74%）ですが、重視したこと（図2-5）の中では「治療費用が適切」（11%）「治療費用が安い」（4%）で、それほど重視されていませんでした。たとえ費用が高額であっても、治療内容や治療成績を重視する傾向にあると思われます。

「医師やスタッフ」については、医師の人柄や経歴、相性などを知りたいと「その他」でコメントした人もいましたが、知りたい情報として選択した人は少数でした。その反面、「医師が信頼できそうだから」（27%）は、重視したことの6番目でした。

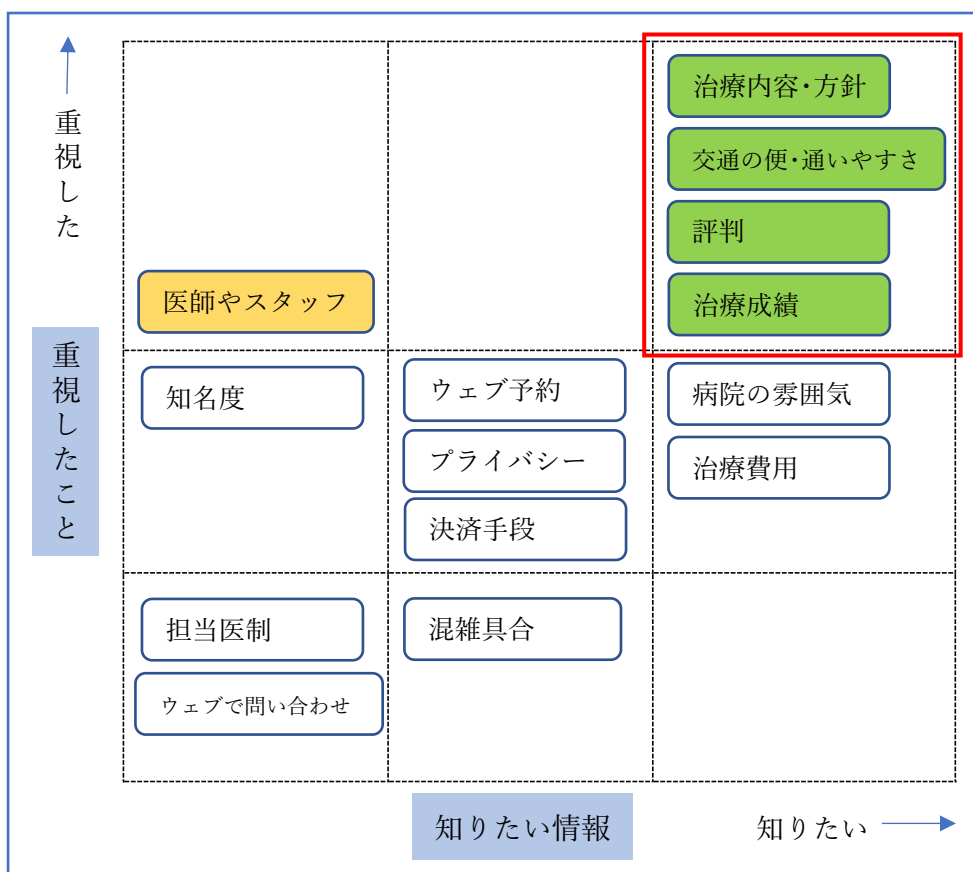


図 2 - 7

## 現在通院している病院には、7割以上が満足している

現在通院している病院に、「とても満足」「やや満足」をあわせると、73%が満足していると答えています（図2-8）。

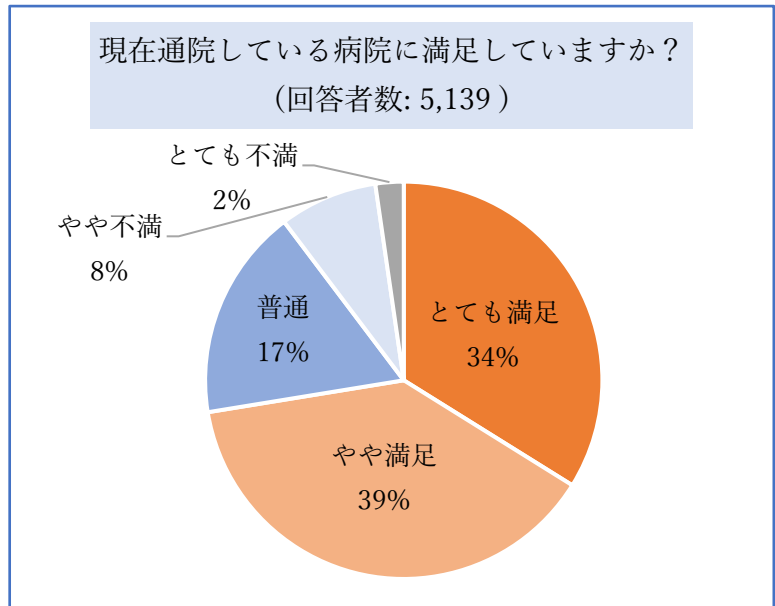


図 2 - 8

病院選びで重視したこと（図2-5）について、各項目を選択した人が、現在通院している病院に満足しているかどうかを調べました。満足している人の割合が多い上位5項目を図2-9に示します。「医師が信頼できそうだから」「プライバシーに配慮がありそうだから」「治療方針が自分にあっていそうだから」「スタッフが親切そうだから」「治療成績がよいから」を重視した人の80%以上が病院に満足していることがわかりました。

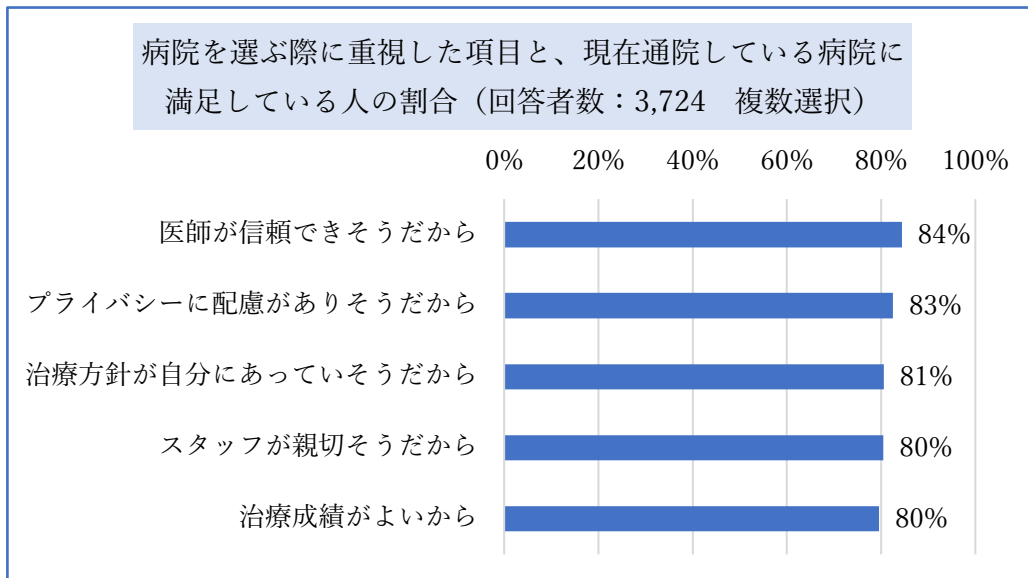


図 2 - 9

## 通院している病院には、医療面と環境や医師・スタッフの対応に満足している

現在通院している病院に、「とても満足」「やや満足」している人（図 2 - 8）が、どんなところに満足しているかを調べました（図 2 - 10）。「医師の技術が優れている」（86%）、「治療技術に期待している」（85%）、「治療結果への期待感がある」（84%）、「高度な治療ができ、技術が優れている」（80%）など医療面での満足が伺えます。加えて、「院内が清潔で居心地がよいから」（88%）、「看護師の対応」（84%）、「医師の対応」（80%）も上位にあがっており、環境や医師・スタッフの対応が満足につながっていることがわかります。

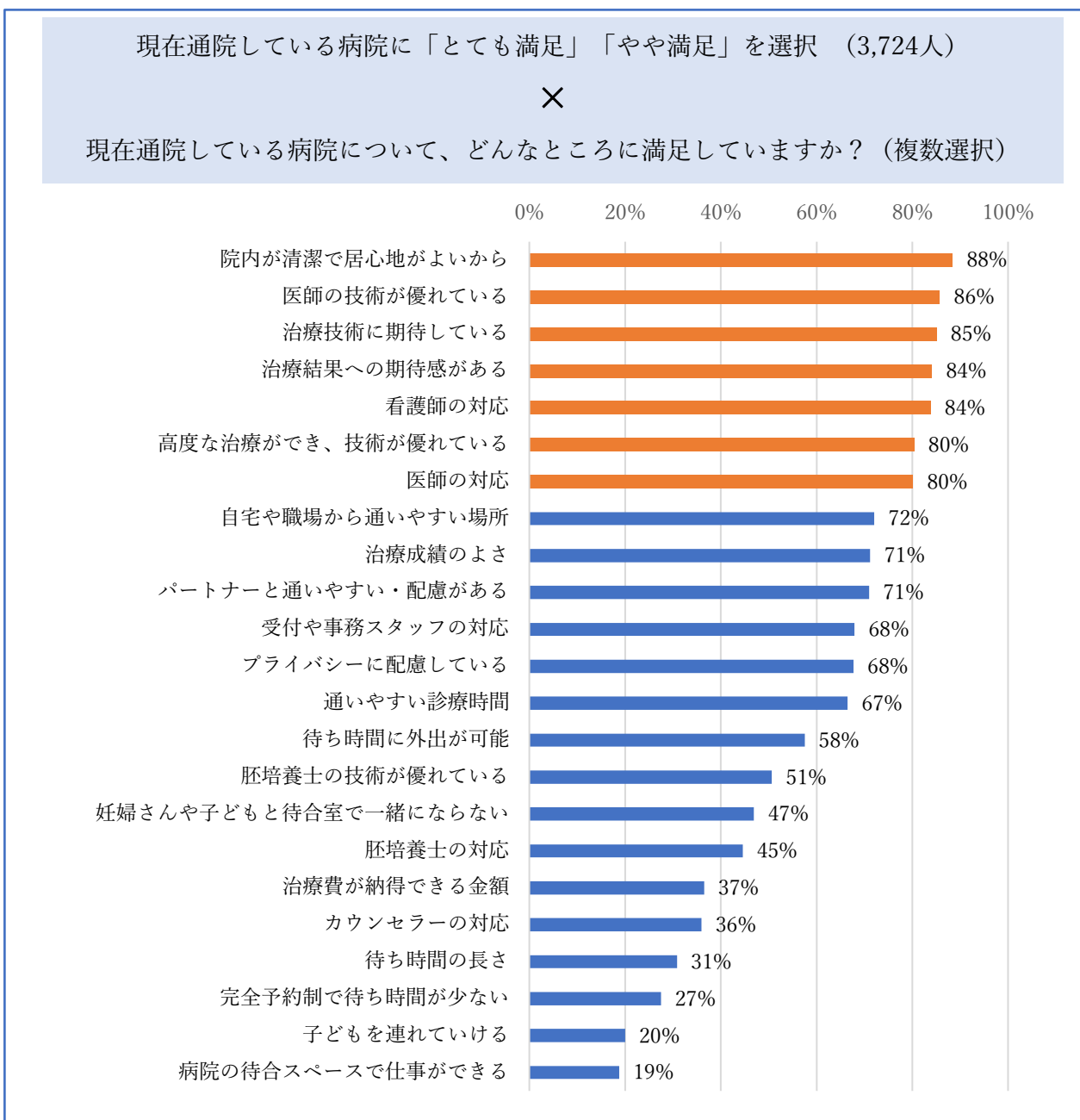


図 2 - 10

## 病院スタッフの対応でうれしかったこと・嫌だったこと ～ アンケートの自由記述欄に寄せられたコメントより ～

### うれしかったこと

- 「他に分からないことはありますか？」と必ず聞いてくれたり、その回答の根拠をデータで見せて説明してくれたりしたこと。不妊治療は、周りに経験者が多くないぶん自分で調べなければいけないことが多すぎるので助かった。(30代女性・埼玉県/パート・アルバイト)
- 看護師さんは感情豊かに寄り添ってくれた。また、ていねいで冷静な受付対応は、気分が落ち込んでいる時に助けられた。(30代女性・東京都/正社員・正職員(総合職))
- オンラインチャットで質問できるシステムがあり、通院後に不安なことや追加質問があったので、気軽に相談メールを送ることができて、電話で回答がもらえたこと。(30代女性・東京都/正社員・正職員(総合職))
- 夫婦で参加した不妊治療説明会で、夫へ、男性の治療の説明と女性がどれだけ負担があるか力説してくださった。男性に対しても優しくフォローしてくださり、おかげで、夫婦で協力して治療できたと思う。(40代女性・埼玉県/パート・アルバイト)
- 治療の早期から、こんな検査(不育症、着床障害など)もありますよ、と情報をもらい、検査について十分に考えることができた。結果、着床障害の項目に複数異常があり、早めに治療に取り組めた。(30代女性・大阪府/正社員・正職員(技能・技術職))
- 病院は何回行っても緊張してしまうので、優しい声かけをしてもらえるとすごく嬉しかった。(30代女性・和歌山県/就業していない)

### 嫌だったこと

- 隣の診察室との間にドアがないので、子連れの患者さんや妊婦さんの診察の時、スタッフ総出で、にぎやかで楽しそうにしている様子が人工授精中に聞こえてきた時は落ち込みました。(30代女性・和歌山県/就業していない)
- 医師と看護師で言っていることが違っていた。医師同士も言っていることが違って、何を信じていいかわからなくなる。(40代女性・埼玉県/自営業)
- 単身赴任中に治療をしていて、「早く一緒に住めばすぐ妊娠するのでは」といった趣旨のことを言われたこと。仕事を辞めたら治療が続けられないのに。(20代女性・鹿児島県/嘱託・契約職員)
- 子連れも仕方がないが、父親も来ているのに、診察室に入った母親についていこうと大声で叫びながら走り回る子どもがいた。病院から注意してほしいかった。(30代女性・京都府/正社員・正職員(一般職))
- 電車が遅延しても、受付時間を1分でも過ぎたら受け付けてくれなかった。時間休を使ったのに、働きながら治療することの難しさを知った。(30代女性・神奈川県/正社員・正職員(専門職))
- 不妊治療について全くの初心者で、自分の状態と、どのような治療が考えられるかを専門の医師に伺いたくて初めて病院へ行ったところ「で、どうしたいんですか?」と聞かれて困りました。(30代女性・山口県/正社員・正職員(総合職))



## 治療成績の開示について

日本における体外受精や顕微授精などの高度生殖補助医療（ART）の治療数や妊娠率は、日本産科婦人科学会でまとめられ、ART データブック（※1）として公開されています。ここに掲載されているのは、登録されている ART 施設の合計の治療成績であり、病院別の治療成績は掲載されていません。

自治体では、令和3年度より指定医療機関の情報公開が始まりました。各自治体のウェブサイトでは、まだ準備中のところもありますが、公開されているところでは、統一された様式で病院別に、治療実施件数（必須）や、妊娠数、生産分娩数などの治療成績や来院患者情報（任意）などを見ることができます（※2）。

海外の治療成績の公開状況をみると、米国では、不妊治療施設合計の治療成績と病院別の治療成績が公開されており（※3）、妊娠率ではなく出産率が掲載されています。

英国では、HFEA という機関のウェブサイトに、不妊治療施設の検索機能（※4）があります。住所や治療内容をキーに検索でき、複数の病院を選択して比較できるようになっています。検索結果には、HFEA が不妊治療施設を審査した「レポートと評価点」「通院患者の評価」「治療成績」が掲載されています。米国も英国も、統一された基準でクリニックの治療成績が1カ所に集められて公開されています。

（※1）ART データブック

<https://plaza.umin.ac.jp/~jsog-art/>

（※2）（例）東京都の指定医療機関の情報公開

<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/kodomo/kosodate/josei/funin/shiteiiryuu-jouhoukoukai.html>

（※3）「2018 Assisted Reproductive Technology – Fertility Clinic Success Rates Report」

<https://ftp.cdc.gov/pub/Publications/art/ART-2018-Clinic-Report-Full.pdf>

（※4）HFEA 「Fertility clinic search」

<https://www.hfea.gov.uk/choose-a-clinic/clinic-search/>